



今年の夏の暑さは尋常ではない。人に会えば「暑いですね」が決まり文句の様に出てくる。しかしこの異常とも思われる現象は暑さばかりではなかった。極端な集中豪雨は人間の思いをはるかに超えた被害をもたらした。これは日本だけでなく地球規模での現象であることは、憂うべき地球の現在の姿なのだ。

地球の誕生はおよそ46億年前といわれているが、そのころの原始大気は主にヘリウムと水素から成っていて高温高圧であったようだ。これは現在の太陽の成分と似ているというが、そこにやがては生物が誕生し、人間をも生きられる環境が大自然の長い年月の営みによって整えられてきたのだ。

そして自然を享受し、自然とともに生きる生き方から、やがては自然を克服し、戦う生き方へと、いつしか変容してきてしまったようだ。暑ければ冷房、寒ければ暖房等々と、ひたすらに快適と便利さを追求してきた文化がある。しかし今、私たち人類は人間の都合に合わせた便利さの追求には限界がきていることを自覚しなければならないのだ。

「足るを知る」(たるをしる)。あの森鷗外の『高瀬舟』の罪人、喜助の言動に、わが身を振り返えさせられ、喜助の頭から毫光(ごうこう=後光のこと)が射しているように思わせられたという同心、羽田庄兵衛のように、私たちもここで、この「厳しいご縁」のもと目を覚さなければ、人類の未来は見えてこないように思われるのだ。

勉強会に参加して

Y M

相変わらず、毎月第二土曜日の勉強会に参加しています。宗教哲学地理歴史などに多少興味あることから、この会に参加しているのかなあと思うことがありますが。浄土真宗大谷派→浄土真宗→大乘仏教→仏教と辿っていくと自分の生き方にも興味が湧いてきます。

今年5月の下旬にシンガポールとマレーシアに行く機会がありまして、住職からシンガポールのマレーライオンをとって帰るよう頼まれました。シンガポールでは、この国の政治力



栄朝会談の開催場所、経済力 高層ビル朝夕のマレーシアからの通勤労働者、文化性 多民族国家整備された自然や観光地に圧倒されました。そして、住職に頼まれたマレーライオンも撮ってきました。

マレーシアでは地元の小学生 中学生 高校生が通う学校との交流に参加しました。その学校はマレーシア 中国 インド イスラム民族の生徒が通い一緒に勉強していますし、それぞれの民族の生徒は誇りを持ち、仲良く、大変親切で、人懐っこく、日本の生徒と何も変わりません。むしろ自分の民族と国に誇り持っています。子どもが大切にされる→子供に活気があり健気に生きること、国境を越えて大切なことです。そして大人がいろいろ宗教哲学とその歴史 地域性に興味を持ち、その多様性を見聞することは大切なことだと思います。

今、寛容と不寛容という二つが話題になることが多く思う思います。このたび、自分の経験が自分にとって感動的で住職に話さずにはおれないことから、原稿依頼を受け、引き受けた自分のいい加減さ 寛容性(?)を恥じ、子供たちの純粋な心に感心して(Thank you)です。



五月から、光受寺学習会で正信偈について解説させていただいております。

正信偈とは、日々のお勤めで「きみよーむりよー」で始まる歌です。正しくは正信念仏偈といい親鸞聖人がお書きになった偈文、つまり歌であります。

聖人は後世の人々に大切なことを伝え残すために、それを正信念仏偈という歌にして書き残したのです。そして聖人亡き後に、真宗門徒の日々のお勤めに読むように推奨されて現在に至ります。しかし、正信偈は全て漢文で書かれており、現代人にはさっぱり意味が分からず呪文のようしか聞こえません。中には亡くなった人の霊魂を鎮める呪文だと思っている人も居るのかもしれませんが、これは親鸞聖人から私達へのメッセージであります。そこに何が書かれているのか、聖人が後世の私達に何を伝え残そうとしたのか、それを御門徒の皆様にお伝えするのは僧侶である私の使命だと思い学習会で取り上げていただくことにしました。

限られた時間の中ではどうしても概要的なご説明に留まってしまいますが、何となくこんなことが書いてあるんだな…程度でもご理解いただけたらと思います。聖人が長い月日をかけて何度も何度も見直し手を加え完成させた正信偈。そこに込めた聖人の想い。そんなことを僅かでも感じ取っていただけたら幸いに思います。初めての方も是非お越しください。(8月お休み。9月から)

— 秋季永代経 —

9月23日 (日・祝)



皆様のご参詣を心よりお待ちしております。

十日講勤まる — 光受寺 —

去る七月十日(火)光受寺において十日講が勤まりました。

つい先日まで降り続いた豪雨による甚大な被害のニュースが流れる中、光受寺の本堂では教如上人のご遺徳を偲び、正信偈を高らかに唱和する声が響き渡りました。役員含め二十数名の門徒さんたちがお参りしてくださいました。

この日の光受寺の山花は久ぶりに豪華に生けられました。準備から当日まで雨と暑さですいぶん苦労いたしましたがおかげさまで精一杯のことができたと言っています。ありがとうございます。



光受寺喫茶は8月お休み、9月再開です。

今年も多くの方に「来寺いただきました。改まっては聞けないかわいなお話も『ごだけ』といふことで楽しんでいきます。また、ピアノを聴いたり、またたくの雑談で終わることもあるのですが、それでよいと思っております。お互いの素顔に触れることができる、素顔が出せる場所、それが心地よいのです。

お経を習いましょう

「子供大会」 上宿 西来寺にて



大きな声で読みました。



氷、冷たい!

毎年行われている行事ですが、年々参加者が少なくなってきました。子どもが少なくなつたことあるのでしょうか、社会の風潮や親の意識もずいぶんと変わつてきたようにも思えます。ひと言では言えませんが、親の子供への願いの価値観が大きく変わつてきていることは間違いないことでしょう。それでも若いお母さんや、おばあちゃんや子や孫の手を引いても参加していただければ有難いことでした。